

ボーイスカウトに 大風を寄贈

スペイン・グラナダで
第7回ジャパンウィーク

十一月二十五日から十二月二日までスペインのグラナダ市で行われた第七回ジャパンウィークに、白根の大風が六回目の参加をしました。ジャパンウィークは、EC各国との友好を図るため、日本の伝統的文化や郷土芸能、スポーツなどを紹介し、国際交流を図るイベント。今回のイベントには、風合戦協会の関係者や議会、行政の代表ら二十三人が参加しました。県内からは、湯東太鼓関係者も一緒に参加しました。会場となったグラナダ市は、地中海側に位置する人口二十六万人の都市。アルハンブラ宮殿やアルバイシンなどの史跡で有名です。

二十八日と二十九日に同市のサッカー場で行われた大風揚げ交流会には、約二千人の市民が詰め掛けました。白根から持参した大風



は「五郎組」と「日吉丸」。会場が狭く、風もないというコンディションのため、ボーイスカウトの子供たちを交えた風揚げは、高く揚げる事ができなかったものの、大人だけで行った風揚げは、高く舞い上がり上々の出来。参加者から盛大な拍手が沸き起こりました。また、地元ボーイスカウト隊から大風が欲しいという申し入れがあり、快く寄贈。本市の一行は、組み立てから揚げ方を、リーダーたちに手を取って指導。正月には白根の大風が、グラナダの空に悠々と舞っていることでしょう。

法人化のメリットは？

FAO視察
高井生産組合

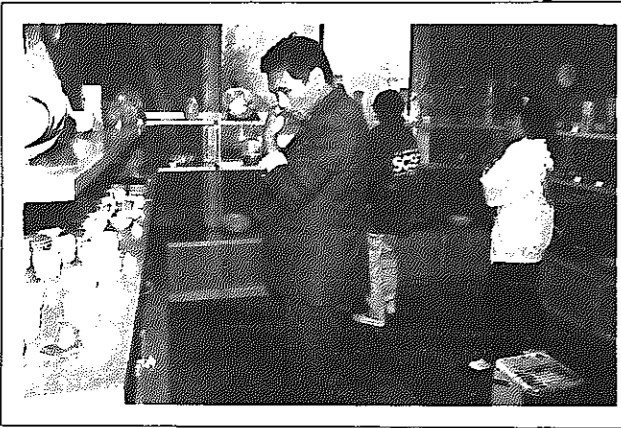
十二月十四日、FAO(国連食糧農業機関)のジョージ・ロスマー情勢・政策研究課長が高井生産組合(樋口代表)を訪れました。これは「93世界食糧白書」に日本の農業について取り上げるための現状視察。ガット農業交渉が大詰めを迎えている農業情勢を気遣ってか、「国連機関なので、ガットとは関係ない」と力説するロスマー課長。樋口代表から説明を受けながら「法人化で収益が増えるのはなぜか」「どのような種類の補助金が使われているのか」など、農事組合法人や収益性について熱心に質問していました。



小魯鬼窯陶房がオープン

高橋澤
舟さん

陶芸家の高橋澤舟さん(大通一丁目)の小魯鬼窯陶房が十二月五日にオープン。作陶展が二十日まで開かれ、多くの陶芸ファンが訪れました。高橋さんは唐津での修行を経て、全国各地に名工の作陶活動を求め、昭和五十五年に大通に窯を開きました。以来、安田の土を使っている粉引、三島などの技法は各方面から高い評価を得ています。「今までの活動は準備段階。これから本格的に自分の目標に向かって頑張りたい。陶房のオープンはその第一ステップです」と高橋さん。慎重に言葉を選ばず、夢の大きさが感じ取られました。



版画で新年のごあいさつ

親子版
画教室

白根地区公民館では十一月二十九日、親子版画教室を開催しました。版画家の渡辺欣次さんの指導で、年賀状作りに五組十四人の親子が挑戦しました。

教室では渡辺さんから彫刻刀の使い方やインクの付け方などを教わり、さっそく年賀状作りに取り掛かりました。「試し刷りをして、修正したときには、削りくずをよく取ってから刷れば、見栄えのする年賀状になりますよ」と渡辺さん。子供たちは、アニメの主人公や乗り物など、自分の気に入ったキャラクターを楽しそうに彫り上げていました。



親子でソバ作りを体験

茨曾根家庭
教育学習会

茨曾根地区家庭教育学習会が十二月十二日、同地区公民館で行われ「親子ソバ作り教室」を開催しました。

この学習会は、学校週五日制の地域行事として、学校の協力を得て教育委員会が主催したもの。十五組の親子が参加し、ソバ作りを通して親子の触れ合いを楽しみました。

有志指導者の本間大次郎さんの指導の下、親子で一生涯命ソバ粉をこねたり、のぼしたり。「ウドンみたい」「お母さんより上手ね」と、会話を聞いているだけで楽しくなります。約二時間かけて出来上がったソバの味は、もちろん最高でした。

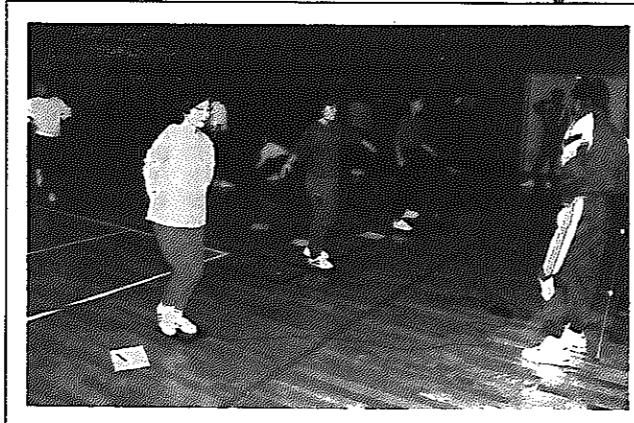


最新鋭の機器で体力テスト

婦人スポ
ーツ教室

婦人スポーツ教室が、カルチャーセンターで十一月十日から五回にわたって開かれました。教室には三十代から五十代の二十九人が参加し、ソフトバレーなどのニュースポーツで、楽しく健康づくりをしました。

十二月一日は体力テスト。運動機器メーカーの協力で最新鋭の機器を使ってテストを行いました。中でも目新しかったのは光反応テスト。機械が発する光に反応して素早くジャンプし、反応時間を測定するもの。反応時間が発表されるたびに、ちょっとしたよめきが。楽しく、にぎやかな体力テストでした。



相撲気分を満喫

相撲博
物展

十一月十七日から二十日まで、市内金融機関で「相撲博物館」が開かれました。これは新店舗開設記念として行われたもの。折しも九州場所開催中とあって、大勢の相撲ファンでにぎわいました。

会場には大正時代の横綱栃木山愛用の帯や横綱羽黒山の書などの貴重な物から、二子山親方や藤島親方の書、人気力士の手形などが所狭しと並びます。相撲好きには見逃せない物ばかりとあって、食い入るように見るファン姿も。相撲甚句が流れる中、チャンコなべも振る舞われ、相撲気分たっぷりの博物館でした。

